

令和6年度第4回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：「地域でささえよう！～笑顔で子育てできる環境づくり～」
- 2 日時：令和6年7月4日（木）14：20～15：40
- 3 場所：和気鶉飼谷交通公園 管理棟研修室（和気町益原 681-1）
- 4 参加者：子育て支援活動に取り組む団体の代表者及びサービス利用者6名
- 5 知事挨拶

子育て支援活動を通して見えてきた課題や子育て支援サービスを利用した感想や意見を伺いたい。

6 発言内容等

【支援活動を通して見えてきた課題】

- ・不登校児が増えている。活動を通じて、暴力や自傷行為などの問題を抱える子どもの存在も見えてきた。子どもたち一人一人に対するきめ細かな教育の実現のためには、不登校児や少人数のクラスの合併は望ましくない。
- ・子育てに関わる人達の交流促進や支援者のネットワークづくりを中心に活動しているが、産前産後を含む子育て中の多忙さは想像以上だと改めて感じている。継続的な支援は困難なことが多いが、子育て中の方の意見を聞き、制度に落とししていくことが重要だと思う。
- ・自治体によっては、子育て支援の拠点や子育て支援に関わるスタッフの勉強の場が少ないという声を聞く。父親の支援や、企業と連携したスタッフの勉強の場を作りたい。
- ・大人だけだと短時間でできることでも、子どもが一緒だと時間がかかることがある。一人では大変だが誰かがいてくれるだけで違う。特に、産前産後のサポートが不足しているため、産前産後の1か月でも、サポート体制が取れたら良いと思う。
- ・保育園で働いているが、両親、祖父母とも仕事や家事で忙しく、周りの大人たちに余裕がないのが現状のようだ。子どもたちに保育園に来ている間は様々な経験をさせてあげたいので、地域の方のご協力のもと、一緒に野菜を収穫するなどの活動をしている。
- ・保育士不足が深刻で、子育てが一段落した保育士資格をお持ちの方をパートタイムで雇用して対応しているが、保育士一人当たりの負担が大きいため、園全体でカバーし合えるチーム力が課題である。
- ・親育ちの支援とともに、親の学び場の存在、また、子育ての経験から得た知識やコツを

共有する仕組みを構築することが重要。

- ・大切な命を育むお父さんお母さんが、くじけたり支えられたりしながら自身の子育てを認めてもらい、幸せな気持ちで子育てできる環境づくりが必要だと感じる。
- ・「第2子・第3子の壁」についてのアンケート調査を行ったが、「3人子どもが欲しい」と答えた人で希望どおりになっていない人が多かった。「第3子の壁」は、特に経済的な理由が多いが、人との繋がりといった環境面の要因もある。

【サービスを利用した感想など】

- ・支援センターは、「子どものための遊び場」というイメージだったが、スタッフの方や他のお母さんと繋がれたことが良かった。子育て中は精神的な負担があるため、一人になる時間や、人と話すことも大切だと感じた。
- ・子どもが発熱した際に、仕事を休むことに対する社会の厳しさを感じ、仕事も子育ても完璧にしなくてはという思いが強かった。誰もが仕事も子育ても気負わず頑張れる社会になってほしい。
- ・サービスを利用して、スタッフの方が子どもの気持ちを代弁してくれたことで親としての気づきがあった。また、子どもたちそれぞれの違いを大切にしたい、子育てを大事にしたいという気持ちになった。
- ・会社の応援もあり、育児休業を4か月取得。もっと取りたかったが、妻も育児休業を取得したため、二人とも無給になったので、4か月以上の休業は難しかった。育児休業の取得をするには、収入がなくても通常の生活ができるだけの預貯金が必要だと感じた。周りに男性の育休取得者は少ない。
- ・県内に低年齢児用の室内の遊び場が少ないような気がする。あったとしても年齢上限がないため、例えば、2歳の子どもと小学生と一緒に遊ぶ状況になるので危ない。香川県、兵庫県は、そうした施設が充実している。

7 知事まとめ

- ・子育てしているお父さんお母さんに、適切な接し方ができない地域に未来はない。
- ・県としても、子育て支援は必ずやらなければならない。